

手術データベースを用いた急性大動脈解離治療の現状に関する研究  
研究分担者 本村 昇 東邦大学医療センター佐倉病院

**研究要旨**

急性大動脈解離手術の現状（2013年から6年間）を日本心臓血管外科手術データベース（JCVSD）を用いて大都市型・地方都市型・過疎地域型に分けて解析した。過疎地域型での病院到達時間は全国より6分長くかかっていた。

**A. 研究目的**

本邦における急性大動脈解離手術の人口密度を加味した全国動向を知ることを目的とする。

**B. 研究方法**

日本心臓血管外科手術データベース（JCVSD）の2013年から2018年のデータを用いて急性大動脈解離手術の人口密度別の二次医療圏での症例数、病院死亡率を抽出する。

（倫理面への配慮）

全国からの手術情報は個人が特定されない状態（「匿名」状態）で収集されており、個人情報に関わる倫理面に配慮がなされている。

**C. 研究結果**

全国の二次医療圏を大都市型（人口百万人以上または人口密度が2千人以上）、地方都市型（人口20万人以上または人口十万人以上かつ人口密度が二百人以上）、過疎地域型（それ以外）に分類した。郵便番号から病院までの到達時間を計算した。

**D. 考察**

心臓大血管救急の代表疾患としての急性大動脈解離手術での病院到達時間は全国での中央値は19.3分であったが、過疎地域型では25.4分であった。発症から手術までの時間を短くすることは救命率向上に直結するため、ICTを用いた医療情報連携の普及と広域救命救急医療体制確立は急務であろう。

**E. 結論**

急性大動脈解離手術実施に至る時間には地域差が見られ、その解消にはICTが寄与すると期待される。

**F. 健康危険情報** 該当せず。

**G. 研究発表**

1. 論文発表

Okita Y, Kumamaru H, Motomura N, et al. Current status of open surgery for acute type A aortic dissection in Japan. J Thorac Cardiovasc Surg. 2020.

2. 学会発表 省略

**H. 知的財産権、その他** なし。

